

Title	多角化戦略を支援する情報システムと組織構造 - セコム株式会社を例にして -
Sub Title	
Author	河村裕之(Kawamura, Hiroyuki) 古川公成
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1993
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1993年度経営学 第992号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001993-0992">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001993-0992</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

河村 裕之  
(セコム株式会社)

主査 古川 公成

副査 柳原 一夫

國領 二郎

所属

古川 公成 研究室

## 多角化戦略を支援する情報システムと組織構造

—セコム株式会社を例にして—

本論文で筆者は、グループ企業の独立と統合という問題を抱えたセコム株式会社を事例として取り上げ、同社の多角化戦略とそれを支援する情報システムと組織構造を考察することで、同様の問題を抱えた他企業にも応用が可能なように一般化を試みた。

同社は「安全を核とした社会システム産業」を将来のビジョンとして標榜していた。このビジョンは、システム資源を共有しながら安全にかかわるトータル・サービスを行うというものである。そして、この基礎には顧客に「豊かさを背景とした自己実現的アメニティー社会」を提供するというコンセプトがあった。このビジョンは、セコムを従来の警備保障業という枠組みから解き放つとともに、そのような社会を実現する諸サービスのうちシステム化できるものを自社の事業領域としていくという意思表示でもあり、セコムはこのビジョンの実現のために多くの子会社を設立もしくは買収してきた。子会社の事業にはセキュリティ事業とその関連事業だけでなく、メディカル事業、情報事業、教育事業、旅行業、メディア事業など多様なものがあった。

同社は、これらの多様な事業を営む企業対して、経営の独立と統合の両立を実現するために、情報による統合を目指した。そこで、91年に情報システム構築を目的としたプロジェクトを発足させるとともに、セコムの組織を改編を実施した。

ここで筆者は、セコムが独立と統合を実現するためにとった経営政策が何を狙ったものなのか、またそれが果たして望ましいものであるのか検討した。これは、セコムと同様に拡大志向のビジョンのもとに多角化戦略を採用または意図している企業の経営を考察する上で、非常に有用であると考えられる。